



2011年7月1日18時
独立行政法人 放射線医学総合研究所

内部被ばくの可能性がある原子力発電所作業員1名を 新たに受け入れ

独立行政法人 放射線医学総合研究所(理事長：米倉 義晴)

放射線医学総合研究所(理事長 米倉義晴、以下、放医研)は、本日、東京電力(株)福島第一原子力発電所において内部被ばくを受けた可能性のある作業員1名を新たに受け入れました。この作業員は、日本原子力研究開発機構による評価作業の結果、甲状腺の体内放射エネルギー(ヨウ素131)が高いことが確認されたため、放医研で健康診断を行うと共に、内部被ばく線量の評価を行うことになったものです。

この作業員は、30歳代の男性で、本日10時頃来所され、体表面の汚染検査、ホールボディカウンターによる内部被ばく検査、血液検査等を行いました。現時点では健康への影響は確認されていません。また、内部被ばくに関する線量評価については現在作業中です。

放医研では、日本原子力研究開発機構による評価作業の結果、甲状腺の体内放射エネルギー(ヨウ素131)が高いことが確認された作業員について、5月30日に2名、6月10日に1名、6月20日に1名、6月24日に2名を受け入れており、今回で合計7名となりました。

なお、本件について、記者会見を実施いたしません。